

コンスタンツの虹学校訪問 2015年9月16日

船尾日出志

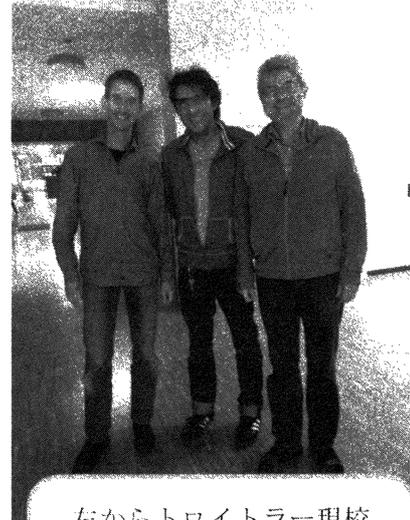
Am 14. September 2015 habe ich an der Regenbogen Schule Konstanz hispitiert.
Hideshi Funao

はじめに

1年ぶりにコンスタンツにある特別支援学校、レーゲンボーゲンシューレ（虹学校）を訪問した。3度目の訪問であった。校長はヴォルフガング・ブリュックナー（Wolfgang Brückner）先生からマルクス・トロイトラー（Markus Treutler）先生に交代していた。そのことは、もちろん承知していた。新校長は初対面であったが、多くの教職員は顔なじみであり、笑顔で迎えてくださった。

今回は1日だけの、しかも当日は水曜日であり、授業は午前中で終了するゆえに、実質的には半日の訪問であった。

トロイトラー校長先生は、実に行き届いた参観計画をたててくださっていた。すなわち前年度に訪問した際に、一緒にリンゴ狩りに同行したクラスの参観であった。最初は手話の授業、「朝食」をはさんで、木工具についての授業がおこなわれた。子どもたちは5年生から6年生になっていた。



左からトロイトラー現校長、ヴェルナー教諭、ブリュックナー前校長

1. 手話の授業

この授業を指導なさっていたのは、前年にもたいへんお世話になったモニカ・ドビンス（Monika Dobbins）先生であった。

子どもたちは教室の端の机の上に置かれた1台のパソコンを囲むように集合した。最初にモニターに映し出されたのは、中央に「果物」という言葉、およびその周囲に並べられた8種類の果物のイラストであった。バナナ、リンゴ、洋ナシ、ブドウ、クルミ、キウイ等であった。

その後、モニターには子どもたちが映し出された。果物を食べたり、切ったりする様子を手話で表現している自分ないし友だちの映像を、みんな笑顔でみていた。

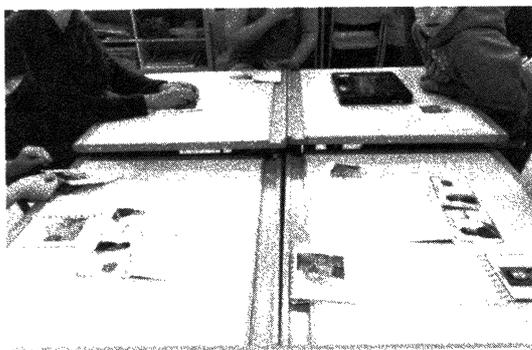
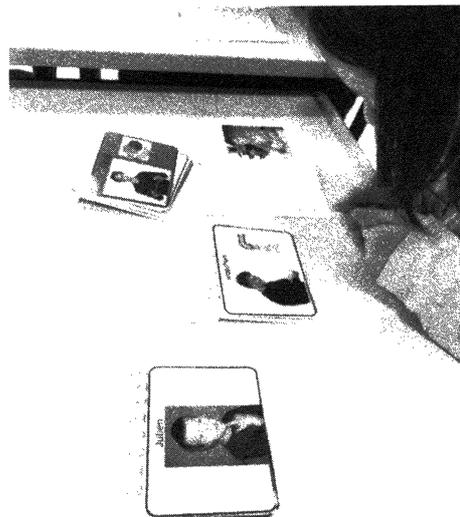
モニターのなかでは、「わたしはバナナを食べま



す。」「わたしはリンゴを切ります。」と、子どもたちが手話で表現していた。



続いて子どもたちは教室の中央にあるテーブルに集まった。そして同級生の顔写真やイラストを見ることができるカードを用いて、それぞれが手話の練習をおこなった。「(同級生の) ユリアンが手を洗う。」等々と。そして最後に、もう一度パソコンの周囲に集合。友だちの見事な演技を楽しんでいた。



男の子の前にだけタブレットが...



授業がひと段落ついたとき、ノルベルト・ラム (Norbert Rahm) 先生が登場した。音楽がご専門の、コンピューターに長けたこの先生とも1年ぶりの再会であった。

様子を見ていると、ラム先生は男の子と、タブレットを使って、一対一で手話の練習を行っていた。この男の子は1年前に比べて、明らかに表情が豊かになり、成長していると、わたしは思った。



2. 「朝食」



その後、「朝食」が始まった。わたしもコーヒーとパンをいただきながら、より学年の低い子どもたちとも、もちろん先生方とも話をする事ができた。多くの子どもたちとは、1年前に一緒に何をしたのかを話題にした。ある先生からは、たぶん冗談だろうけど、「どうしてそんなにドイツ語ができるのですか？」と尋ねられた。もちろんわたしのドイツ語会話力はひどいのだが、40年以上ドイツ教育学を学び続けていることは、事実である。

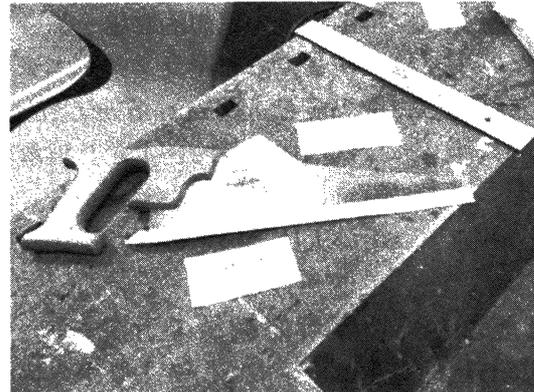
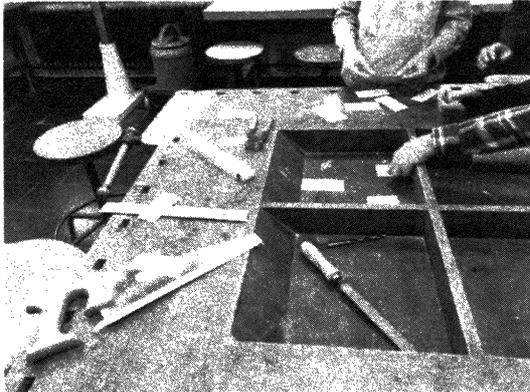
なので、お話しした。朝食後はしばらく休憩時間であり、子どもたちは校庭で遊んでいた。

3. 木工具の学習

続いて子どもたちは、アネ・ドゥベルケ (Anne Dubberke) 先生に連れられて向かったのは木工室であった。



子どもたちがこの部屋で個々の道具について学ぶのは初めてのようであった。まず道具を実際に手にし、そしてそれぞれ道具に名札が置かれた。最後に、くぎ打ちの練習がなされた。流れはシンプルだったが、むしろシンプルさが子どもたちには良いように思えた。



おわりに

短い滞在期間であり、たった2つの授業をみただけであったが、1年ぶりにみた子どもたちの確かな成長と、相変わらず組織的で、着実な授業運営を確認することができた。